

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年8月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4072500392
法人名	社会福祉法人 大川鶴喉会
事業所名	グループホーム 第二こすもす
所在地 (電話番号)	福岡県大川市大字津390-9 (電話) 0944-86-7238
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年7月2日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤	14 人, 非常勤 2人, 常勤換算 10.7人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費	200円/日
敷金	有 <input checked="" type="radio"/> (50,000 円) 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 <input type="radio"/> () 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(平成20年6月1日現在)

利用者人数	15 名	男性	1 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.4 歳	最低	76 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木病院、蔵本医院、大川メンタルクリニック、柿添歯科クリニック
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木工の町大川の住宅地にあり、介護老人福祉施設を母体としていくつもの関連施設を持ち、住み慣れた地域で安心して暮らせる社会づくりに貢献しているホームである。ケアビクスや料理教室、母体法人大川荘への天然足湯計画等には、ホームを開放し地域との交流も自然な形で行なわれている。ホームの基本理念である「敬愛」(尊敬と親しみ)の精神を持って、認知症になっても安心して暮らせるよう今何をされているのか、今何を必要とされているのか、利用者の日々の行動を認め同じ目線でケアにあたっている。利用者は、笑顔と活気に満ち安心して過ごすことができている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である同業者との交流のために、市が呼びかけてグループホームの交流の機会を設けてもらった。グループホームでの問題点や日頃の悩みなど意見交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。権利擁護・成年後見制度のパンフレットを目に付くところに設置し、入居時に利用者、家族へ説明したりいつでも相談できる体制が出来ている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に関しては、全職員で評価項目を確認し、話し合い意見を出し合って作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>外部評価の報告や行事の予定、事故報告及び利用者の状況報告等を行い、グループホームや認知症について理解してもらおうと共にサービス向上に取り組んでいる。市役所職員には、運営推進会議に毎回参加しているので、困難事例の相談や事故報告等行い支援を受けるとともに、同業者との交流のためにグループホーム協議会の立ち上げに協力してもらった。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>行事や日々の生活の写真などをホーム内に掲示し、家族の訪問時に見ていただくとともに、毎月“たより”を発行し利用者の暮らしぶり等を報告している。家族訪問時に声かけしたり、玄関には連絡箱を設置しているが、今までに1度も入っていたことはない。サービスの質の確保、向上の為に、家族等の率直な意見は、事業所にとって大切なことである。アンケート等を利用するなどして意見の聴取に努めていただきたい。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム行事であるケアビクスや料理教室、母体法人大川荘への天然足湯計画等には、ホームを開放し地域の方にも参加してもらっている。また、近くの八百屋やスーパー等への買い物に行ったり、地域行事の夏祭りや夜市、敬老会へも参加されている。</p>
重点項目④	

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬愛」を基本理念に掲げ、基本方針、行動指針に具体化している。利用者が地域の中で自分らしく生活できる支援や地域交流の場として地域福祉の拠点を目指した理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、家族、職員が何時でも確認できるよう廊下や休憩室等に掲示し、常に意識付けをしている。職員一人ひとりが理念を理解し、日々利用者との関わりの中で、尊敬と親しみを持って接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム行事であるケアピクスや料理教室、母体法人大川荘への天然足湯計画等には、ホームを開放し地域の方にも参加してもらっている。また、近くの八百屋やスーパー等へ買い物に行ったり、地域行事の夏祭りや夜市、敬老会にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価は、職員会議で報告し評価で見出された課題については改善が出来ている。今回の自己評価に関しては、全職員で評価項目を確認し、話し合い意見を出し合って作成されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、区長、利用者、家族代表法人役員の参加で、外部評価の報告や行事の予定、事故報告及び利用者の状況報告等を行い、グループホームや認知症を理解してもらおうと共にサービス向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいているので、困難事例の相談や事故報告等行い支援を受けている。外部評価の結果を報告し、同業者との交流のためにグループホーム協議会の立ち上げに協力してもらった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今までに利用されている方はいないが、入居時に利用者、家族へ説明したり、パンフレットを目に付くところに設置し、いつでも相談できる体制が出来ている。法人の勉強会やグループホームの職員会議において職員の理解が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や日々の生活の写真などをホーム内に掲示し、家族の訪問時に見て頂くとともに、毎月たよりを発行し利用者の暮らしぶり等を報告している。金銭管理においても、金銭出納帳を3ヶ月に1回家族に確認してもらっている。受診の報告や緊急連絡が必要なものに対しては、随時電話などで報告されている。職員の異動に関しては、利用者へ口頭での挨拶のみである。	○	利用者の一番身近な存在である職員の異動は、利用者だけでなく家族へも明確な報告が必要である。毎月のたよりなどを利用し、報告されることを期待する。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時に声かけし、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。玄関に連絡箱を設置しているが、今までに1度も入っていたことはない。2ヶ月に1回介護相談員を受け入れている。	○	サービスの質の確保、向上の為に、家族等の率直な意見は、事業所にとって大切なことである。アンケート等を利用するなどして意見の聴取に努めていただきたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動時や離職を必要最小限に抑える努力をしているが、やむを得ず異動や離職になった場合は、利用者へ挨拶をし、新任職員へは、管理者がついて業務を教えると共に利用者との馴染みの関係づくりを行いダメージの軽減を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	経営母体である社会福祉法人が職員の採用を行っており、性別・年齢等に関係なく採用している。資格より人間性、人格などを重視して採用している。勤務交代や休みも柔軟に対応し働きやすい職場になっている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会に参加し、ホーム内での会議等を利用して勉強会が行われ職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。言葉遣いや穏やかな対応を心がけ尊敬の念をこめたケアを行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修へ参加し、ホーム内での勉強会等で報告している。職員個々の1年間の目標を決め目標の実現に向けての支援している。結果のみを求めるのではなく、実現に向けての過程を評価している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>昨年、市の呼びかけでグループホームの集まりがあった。グループホームでの問題点や日頃の悩みなど意見交換し、サービスの質の向上へ取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居相談があったら、職員が利用者宅に出向き本人と面談し相談を受けている。見学は、随時行っている。ショートステイや体験入居等、利用者や家族が納得され安心してサービスの利用が出来るような体制が出来ている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意な料理やあみもの、お茶、お花、地域の行事など教えていただいている。職員と一緒に過ごす事により利用者の温かい言葉や笑顔に支えられ活力へと繋がることも多い。人生の先輩として利用者から学んだり、支え合う関係が築かれている。</p>		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の状態や生活歴、趣味、習慣等を出来るだけ詳しく情報収集し、行動や表情から思いを汲み取り、職員間で話し合いケアに生かしている。どのように過ごしたいか希望を表していただけない方には、職員が寄り添い昔の話など話しかけたりして、本人の気持ちを把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者個々に担当制を設け、担当者、計画作成者が日常のかかわりを通じて利用者の希望や思いなどを把握し、家族には面会時や電話連絡等を通じて希望等を聞き、カンファレンスで協議し、介護計画へ反映している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月評価を実施し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。期間にとらわれず状態に変化が生じた時や、新たな気づきや意見が出された時は、随時プランの変更を行っている。職員は申し送り等により周知徹底が図られている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊希望があれば一緒に泊まれるようにしたり、誕生会には家族が参加する演出が施され要望に添った支援を行っている。また、市の委託を受け介護教室を開催したり、台風などの災害時に近隣の方の避難先として受入れの用意があり柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれに入居以前からのかかりつけ医があり、定期受診には看護師が付き添い家族に状況の報告を行っている。また、家族に同行をお願いをする事もあり、受診結果については充分把握できている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時や終末期にどう対応するかについて、入居契約の時にホームの看取りの指針を説明し、利用者・家族等の意向を伺っている。重度化し、終末期を迎えられた利用者はいないが、看取りが必要になった場合はホームとして対応していく予定であり、そのため終末期の対応や体制を準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入浴や排泄ケアの際は利用者のプライバシー保護に配慮している。ホーム外で利用者の個人的なことは話題にしない、書類等は必要時以外は見えないところに保管する、書類も持ち出さないよう徹底するなど個人情報の取扱には注意をはらっている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	歌を歌う、貼り絵や編み物などの趣味、昼寝をされる方など、一人ひとりのペースに合わせ支援している。徘徊される方は、本人の行動を否定せずに気が済むまで側について見守る。利用者の言動や行動に対し、否定したり、指導的な言動を取らないケアが行われている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・配膳・下膳など利用者と一緒にこなしている。職員も一緒に食卓を囲み、必要な介助を行いながら、楽しい雰囲気を作るようにしている。利用者の希望を献立に取り入れる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午後から一日おきである。利用者の希望に応じた対応ができるように職員間で検討中である。浴室は浴槽がひとつであり、手すりやシャワーチェアを利用し個別に対応をしている。また法人が持つ施設の温泉に行くこともある。	○	入浴は、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にしたい支援が求められる。現在、職員間で課題として把握されており、課題解決に向けて利用者の希望を具体的に把握するなどし、希望に添える支援がなされるよう期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、手芸、工芸、茶道、調理、歌を歌う等の利用者が得意とすることを趣味や生活の中の役割、楽しみごとに活力を引き出せるよう支援している。また法人全体の運動会への参加なども行われている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の折に近くの八百屋で一緒に買物をしたり、ファミリーレストランでの外食、花見などにより気分転換ができるよう積極的に戸外で過ごせる機会をつくり、外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の玄関はセンサーで対応し鍵をかけないようにしている。2階に関しては1階へとつなぐ階段や外へ続く階段には弊害と理解しつつも危険防止の観点から家族の同意を得た上で鍵をかけている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、年に2回避難訓練を行っている。災害時のマニュアルを整備している。近隣の方々に訓練時には声かけをして協力を呼びかけている。今後も運営推進会議等で更なる協力体制を築いていきたいと考えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し把握している。糖尿病や高血圧の方には減塩、薄味にするなど個々にあわせて食の支援をしている。全職員が作成する献立は、同法人の栄養士に専門的なアドバイスを受け、新メニューに取り入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入口や廊下には利用者が作成した飾りや貼り絵、外出時の写真などがたくさん飾られている。1階、2階とも天井が高く、居心地のよい空間をつくりだしている。台所、畳の間も広く家庭的な環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々に合わせて使い慣れた物が持ち込まれ、家族や催しの時の写真、人形などが飾られており、居心地よく過ごせる居室となっている。転落、転倒などの危険がないように家具などの配置にも注意が施されている。</p>		